尾上の松　高砂より福どまりといふ所へこゆる間、川より東のかたにあり、

曾根の松　曾根村と云所の海邊にある松也、太サ五かゝゑ程ありて、枝々四方にわかれ、無雙の名木也、

〔源平盛衰記十七〕人々見名所名所月事

八月〇治承四年十日餘ニ成テ、新帝〇安德ノ供奉ノ人々ツレ〳〵ヲ慰煩、名所ノ月ヲ見ントテ、思々ニ行別ル、〇中略或源氏大將ノ跡ヲ追、須磨ヨリ明石ニ浦傳フ人モアリ、〇下略

〔吾妻鏡四〕元暦二年〇文治元年八月廿四日甲戌、下河邊庄司行平、蒙歸參御免、自鎮西去夜參著、是相副參州、發向西海、竭軍忠訖、〇中略仰曰、西國者大底見之歟、依今勳功欲宛行一國守護職、何國哉可請者、行平申云、播磨國、有取瓔明石等之勝地、有如書寫山之靈場、尤所望云云、早可有御計之由、被諾仰云云、

〔平家物語一〕すゞきの事

ある時たゞもり、ひぜんの國よりのぼられたりけるに、鳥羽の院、あかしのうらはいかにと仰ければ、忠盛かしこまつて、

有明の月もあかしの浦風に波ばかりこそよるとみえしか、と申されたりければ、院大きに御かん有て、やがて此歌をばきんゑうゑうに入られける、

〔源平盛衰記四十三〕安德帝不吉瑞并義經上洛事

九郎判官義經、虜ノ人々ヲ相具シテ、播磨國明石浦ニ著、名ニシオフ名所ナル上、今夜ハコトニ月隈ナクサヘツヽ、秋ノ空ニモ劣ラズ、深行儘、女房達頭サシツドヘテ、旅寢ノ空ノ旅ナレバ、夢ニ夢見ル心地ニテ、終夜打マドロム事モナシ、

〔增鏡十九くめのさら山〕福原の島より宮〇尊良は御舟にたてまつる、〇中略はりまの國へつかせ給て、去